

市内で甚大な被害



土砂崩れにより通行できなくなった国道27号線の復旧作業の様子（真倉地区、7月7日撮影）

復旧に向けた活動

ボランティアによる復旧活動

7月12日～16日に実施した災害ボランティアには、期間中に延べ70件の支援要請があり、復旧作業には延べ344人（個人116人、5団体228人）が参加。中には北海道や関東地方、近畿圏内からの参加もあり、市内外から多くの人に支援いただきました。また、7月10日・11日には日星高校による活動も行われました。



左) 日星高校看護科の生徒による泥や災害ごみの搬出（魚屋地区、7月11日）
右) 福井県からは12日～16日にかけて県内各地から多くの方がボランティアに参加。写真は境谷地区での泥の搬出の様子（7月14日）

住宅の消毒と保健師訪問

7月10日からは、浸水した住宅の消毒と同時に保健師訪問による被災された方への健康相談を実施。被災地の感染症対策や健康チェック、健康相談などに取り組みました。



▲保健師による血圧測定（7月11日） ▲浸水した住宅の消毒作業（7月11日）

牧野国土交通副大臣が視察

7月15日に牧野京夫・国土交通副大臣が舞鶴市・福知山市・綾部市の被災地を視察。本市では志高地区や真倉地区の被害状況を確認しました。

その後、多々見市長、福知山市長、綾部市長と意見交換を行うとともに、それぞれ復旧に向けた要望書を手渡しました。



▲牧野国土交通副大臣に要望書を手渡す多々見市長（左、7月15日）

【主な被害状況（7月19日現在）】

建物被害	住家 ◆大規模半壊…1戸 ◆一部損壊…17戸 ◆床上浸水…223戸 ◆床下浸水…490戸
避難所	開設延べ17か所、避難者延べ259人
人的被害	死者1人
農林業被害	◆農地冠水…約377㌔ ◆作物被害…約4.4% ◆山崩れ等…232か所 ◆ビニールハウス、農機具庫…15棟
漁業被害	◆漁船の転覆など…4隻 ◆漁船保全修理施設の一部損壊 ◆海岸漂着ごみ…流木など（7月13日撤去済み）
道路・河川などの被害	◆道路…255か所 ◆河川…157か所 ◆都市公園…3か所

災害時は情報収集が大切

FMまいづるで情報発信（77.5MHz）



▲番組内で被災者向けの支援策を放送

コミュニティFM局「FMまいづる」では、「災害情報BOX」コーナーを立ち上げ情報発信。今回の大雨災害においても、市民の皆さんに向けて気象警報や避難所開設、避難勧告などの「防災情報」や被災された人への「支援情報」を発信していただいていますので、ぜひお聞きください。

メール配信サービスで情報収集



▲防災情報をいち早くメール発信

気象警報や避難所開設、避難勧告などの情報は「まいづるメール配信サービス」が最速でお知らせできる手段です。災害から身を守るために、ぜひご利用ください。登録は右上のコードから。



防災行政無線のテレホンサービス

防災行政無線で放送した内容を電話で確認できるテレホンサービスを実施しています。防災行政無線の放送が聞き取れなかった場合やもう一度確認したいときは次の番号に電話してください。



【テレホンサービス番号】62-7400

ホームページで防災情報を順次更新

市公式ホームページでは、気象警報や避難所開設などの防災情報をトップページの緊急情報として掲載します。市内の警報や道路・電車・バスの交通情報などの情報収集に活用してください。



▶詳しくは、広報広聴課（☎66・1041）へ。

◆安全・安心を最優先

7月5日から7日にかけて西日本を中心に全国的に広い範囲を襲った豪雨で、舞鶴市も由良川や伊佐津川、高野川などの河川が増水したほか、各所で土砂が崩落したり道路欠損が発生するなど、甚大な被害がありました。

市では、市民の皆さんの安全・安心を最優先に考え、5日の大雨警報の発表を受け、同日11時56分に災害警戒本部を設置。15時に自主避難所5か所（大浦会館、南公民館、中総会館、西支所、加佐公民館）を開設。防災行政無線や広報車、まいづるメール配信サービス、市ホームページ、テレビ、ラジオなどの手段で気象情報や防災情報などを伝達しました。また、同日16時30分に市内全域に避難準備・高齢者等避難開始の発表と併せ、計13か所の避難所を開設。17時に高野川の水位が大きく上昇したことから高野川流域に避難勧告を発表しました。

5日から降り続いた雨により、6日23時35分に土砂災害警戒情報が発表され、翌7日0時12分に加佐地区全域に避難勧告。その後、雨足が急激に強まり、0時35分に大雨特別警報を受け市内全域に避難指示（緊急）を発表しました。いずれも深夜の発表であり、道路冠水など暗い中での避難は危険であることから、「屋内の高い所や山とは反対側への移動」など命を守る

◆被災、そして復旧へ

大雨が去ったあと、すぐに市内では市民やボランティアをはじめ、海上自衛隊、海上保安庁、京都府警察、消防団など多くの関係団体の協力のもと、復旧に向けての作業が始まりました。7月10日には、舞鶴市社会福祉協議会、舞鶴青年会議所、ガバナンス舞鶴、舞鶴市ボランティアセンターが中心となり「舞鶴災害ボランティアセン

ター」が開設されました。市内外から駆け付けたボランティアの皆さんに、浸水被害を受けた家屋の泥の撤去、道路の清掃などの作業に尽力いただきました。また、7月21日から農業災害ボランティアを実施。復旧に向けて多くの支援をいただきました。

◆市民の皆さんから提供頂いた被害状況の写真など



《写真や動画の提供ありがとうございました》

提供をお願いしておりました大雨被害の写真につきましては、多くの方々からの提供をいただきました。いただいた写真や動画、ご意見などは、今後の対応改善や記録、要望活動などに活用させていただきます。《広報広聴課》